

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472700277		
法人名	社会福祉法人 永楽会		
事業所名	グループホーム そよかぜ	ユニット名	
所在地	宮城県黒川郡富谷町富谷字桜田1-11		
自己評価作成日	平成 25 年 12 月 20 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームそよかぜは「とうみやの杜」の敷地内に位置しています。広い敷地内は、緑が多く散歩には最適な環境です。他施設との交流を図りながら、交通安全運動や地域の行事等に参加し、地域の一員として生活ができるよう地域の方との馴染みの関係を大切にしています。又、リハビリや余暇活動の充実を図ることで安心して「その人らしく」生活が出来るよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

かつては法人独自で、現在は町主催で福祉フォーラムを継続実施している町であり、職員のプロ意識がとても高いと感じた。同一敷地内にある地域活動支援センターから常に情報が発信され、入居者は生涯教室、サークル活動に出掛けている。運営推進会議を開催し毎回ほぼ全員の入居者が出席し1年の振り返りとして、「まあ良かった」「健康で過ごせた」「いろいろ出掛けて楽しかった」と話している。日々の食材を地域の商店から購入し、旬、活きの良さ、納品時の入居者との語らいの場作りにも深く配慮している。富谷町地域活動支援センター職員も散歩時には声掛けし、一人歩きの時はホームに一報し、一体となつた見守り体制がある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 26 年 1 月 23 日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(事業所名 グループホームそよかぜ)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	とうみやの杜の理念に基づき独自の理念を作成しそれに基づき支援を行っている。また、所内に掲示しており日々確認できるようにしている。ケア会議等で確認し合い実践している。	3年前グループホーム独自の理念を全員で作り、それに基づき目標を掲げ、今年度も会議で現状を話し合い確認し継続している。地域との気軽な交流、思いやりと笑顔、言葉掛け等について振り返り実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交通安全街頭指導や夏祭り、地域の祭り、町主催のフォーラムに参加し交流を持てるようにしている。又、地域の生涯学習活動にも参加できるよう送迎をしている。	敷地内に富谷町の地域活動支援センターがあり、地域の交流活動情報が豊富である。生涯学習教室で「七宝作り」に参加し、定期的な住職の講話や行事でのボランティアの訪問、障害者施設との交流と多彩である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の交流を通し認知症への理解や支援の方法を地域の方々に向けて伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を持ち、利用者の状況・取り組みについて報告・話し合いを行い、そこからの意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議を6回実施し行政参加は5回である。町内会、家族、知見者が参加し、入居者は毎回ほぼ全員参加している。感染症等季節毎の情報や行事、食事の希望が話され日々の運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告書、推進会議、電話での状況報告をしており、場所も近隣である事から時折助言を頂いている。	初期には法人独自で、現在は町主催で地域福祉フォーラムが開催等を通して、ホームとの日常的な交流は密である。敷地内の支援センター職員は散歩時の入居者に声掛けし、一人歩きの時はホームに一報している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員同士話し合い、個々の状況に応じ身体拘束を行わない支援を工夫している。毎年杜の風で研修が行われており、各職員が受講。リスクマネジメントにおいても話し合っている。	「その人に合ったケアを実施すれば、拘束の必要はない」ことを全員が共有し、鍵は掛けず日中も自由に任せている。入居者がリビングから自由に出入りし、飼い犬に餌をやり声を掛けていた。近隣施設等の見守り、協力も得られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年杜の風で研修が行われており、各職員受講し虐待を行わない支援へとつなげている。リスクマネジメント委員会でも話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	杜の風で行われる研修に参加する他、スタッフへの意識を持ってもらえるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や申し込み・入居時に説明を充分に行い理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会・電話の際に話を聞き、ケア会議等で話し合っ、運営に反映させるように努めている。	全家族に運営推進会議への通知をし参加もしているが、希望、要望は少ない。同会議での入居者の発言は食事、行事等について活発で、毎食お新香が欲しい、フラダンスが観たい等もあり、実践に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議等で職員の意見を取り入れ、反映させる様にしている。	入居者への関わりを担当制としている。食事面で牛乳を昼から朝に変更し、デザートを追加した。入居者がパジャマを着替えれない等の意欲の低下に伴う変化について話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で協議し、努力している。又、職員の意見や要望を聞き入れて向上心が持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成・研修企画検討委員会を設置し、育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム会議を行ない、開催場所を輪番などとし、サービス・ケアの向上に努めている。運営・基準勉強会も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の生活の中においても利用者が何を求めているのか、何をしたいのかじっくりと聞き、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時から折に触れ意向や相談事を伺い、あった際にはじっくり話を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中から現状や何を求めているのかを見極め、サービスに活かせるように努めている、		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯物の干し方などを一緒に行い、生活を共にしている事を感じてもらうように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出・外泊、電話で話せるような環境を作り、互いに支え合う環境を保てるよう努めている。特に面会時には積極的に家族と向き合うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や地域の祭りに出かけ、関係を切らないにしたり、知人が気軽に訪問しあうことが出来るような環境づくりに努めている。又、業者の方との馴染みの関係も出来ている。	地域とのつながりを大切に食材も地元から取り寄せている。配達時の会話などで馴染みの関係作りや、友人、家族の来訪時には居室にお茶を運び、入居者同士が訪ね合う時には見守っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人個人の特徴を捉え、互いが支え合う仲になるよう食卓の配置などを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了以降も気軽に相談に乗ったり、訪問して頂けるような環境づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に各利用者主体の支援に努めているが、意思表示などが困難な場合は家族と相談した上で支援を行っている。	管理者、職員は日頃から入居者の話をよく聴くことの大切さを共有し、常に関わっている。元気がない様子が見られれば居室でゆっくりと一緒に過ごしている。水族館や映画館、買い物に個別に出掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活習慣や環境を本人・家族から聞き趣味等を日々の生活に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録と24hシートを作成し、日々の状況把握に努めている。又、入居者が出来ることを担当職員、家族と話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、入居者や家族の意向を組み入れた介護計画を作成している。毎月のケア会議等で定期的にモニタリングも行なっている。	担当職員は毎月家族の意向、要望を聞き、変化等計画作成者に伝え、作成後会議に諮り家族の同意を得ている。現状安定した状態が続き、継続した介護計画の作成である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録を作成し、職員間で話し合いながら、日々の状況把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の体調不良の変化で対応し、困難な事例が生じた際には他事業所や支援センターに相談するなどして解決に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、ドライブ等に出かけ、日々の楽しみを持って頂けるように努めている。町の健康診断を受けたり、地域のサークルに参加したり、楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりのかかりつけ医へ家族の協力を受診している。状況に応じて職員が付き添い主治医と相談をしている。	本人、家族が希望するかかりつけ医への受診支援であり協力医には全員のカルテがある。眼科、循環器等専門医は家族と受診し、ホームでは結果を連絡帳で共有している。この1年間入院者がいない事が自慢である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師資格のある職員を中心に、日々の健康管理を行っている。急変時、処置等は隣接の特養の看護師に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な状況を提供し、入院状況の伺い・経過の聞き取りをこまめに行うようにしている。又、施設の嘱託医への協力を要請している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員は看取りの勉強会に参加したり、主治医・家族を交え、今後についての話し合いを行っている。	同法人内にケアハウス、グループホーム、特別養護老人ホームがあり、段階的な移行が可能な側面もある等で、終末期等での指針は作成されていない。新規入居者への意思確認等はされていない。	前回の外部評価でも課題とされており、医療連携体制、職員意識の向上も含め現在取り組み途中であり、期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習が行われている。入居者個々の急変時対応をケア会議等で話し合っている。緊急マニュアルを見やすいところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。	同法人内で合同の避難訓練やグループホーム独自の避難訓練を夜間想定で実施している。富谷町とは災害協定も結び相互の協力体制も見られる。火災、地震時のマニュアルもあるが、風水害対策も期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	先人への敬意を持った上で、一人一人に会った声掛けや支援を工夫している。傾聴することを心掛けている。	入居者一人ひとりのその人なりのリズムを尊重し起床、食事時間も自由にしている。職員の声掛け、対応はゆっくりと穏やかであり、トイレ、入浴への誘導はトーンを下げ他の人に気付かれないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思が表し易いような声掛けをし、時間をかけて決めて頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のペースを大切に、一日を楽しく希望に沿った安心した生活が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じ散髪に行ったり、好みの化粧品を購入している。又、職員と一緒に着替えの服を準備するなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみながら食事が出来るよう行事食、外食を取り入れている。食事の準備(野菜きり、味付け)や後片付けも一緒に行っている。食彩委員会でメニュー等を検討し委員が作成している。	食材を地域の業者から仕入れ、旬や新鮮さに配慮し、入居者との語らいの場ともしている。日々の会話で好み、希望を探り献立に反映し、花見弁当、バーベキュー等季節感に配慮し、週に1度刺身も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を生活記録に記録し、状況・状態に応じて支援を行っている。毎日の献立には多種類の食材を使用するよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・就寝前に口腔ケアの支援を行っており、一人で可能な方は声掛け・見守り確認を行っている。専門職による口腔ケアを実施、指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録から個人個人のパターンを把握し、日中は布製下着の着用を心がけてトイレでの排泄支援を行っている。	日中、夜間ともトイレでの排泄支援であり、夜間も自然の目覚めを待ってトイレに誘導支援している。食事面で野菜が多く、便秘予防に牛乳、ヨーグルト等を提供し功を奏している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、リハビリ等の運動の他、下剤処方での対応など個々人の状況・状態に応じて対応している。又、乳酸菌飲料を定期的に飲むようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向を聞き、ゆっくり楽しむように支援を行っている。	入浴は週に1度だったり、2日毎だったり夫々である。慣習での柚子湯、菖蒲湯で季節を感じ、温泉風を楽しんだりしている。稀に1時間もの長風呂になる方もいるが、様子を見守り楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況・状態に応じて昼寝をしたり、夜間帯は睡眠を妨げない為物音などに配慮している。寝具についても週に一度洗濯をし気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、服薬支援の際一人ずつ名前を確認し細心の注意をはらい服薬の支援を行っている。症状の変化については、職員間で情報を共有し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備の手伝いなど役割を持てるようにし、趣味や外出の機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブ、定義山など希望に沿って外出し、四季の風景を楽しんでいたけよう支援している。	運営推進会議の席上、入居者が「色々な所に出掛け、楽しかった」と話しているが、映画館、水族館、本を買いに等個別の外出を支援し、七夕、ひまわり見物など遠出もしている。散歩コースでのブルーベリー摘み、広い敷地での日向ぼっこと季節毎の楽しみもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じ金庫に預かる他、希望によって手持ちで持ち返るなど、できる限り自分で管理が出来るよう支援している。金庫にある場合も要望によって購入したい物がある時など出し入れを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は居間や玄関を入れてすぐにあり、何時でも掛けられる場所に設置している。又、掛けられない方には職員が対応している。時々手紙や年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や植物を多くし、絵を飾ったりするなどして家庭的な暖かみを工夫している。	建物内はバリアフリーであり、色合いが家庭的である。多くの時間を過ごす食堂兼居間はガラス戸で穏やかに光が差込み温かい。外の飼い犬が餌をせがみ戸を引っかくと、入居者が外に出て犬に話し掛け餌やりする姿は、日常の落ち着いた暮らしの反映であろう。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるような開放的な空間を作ると共に、腰掛ける場所を多く配慮する事で、気の合う入居者同士が談話されている。家族の面会時には好きな場所でお茶を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が以前使用していた家具や仏壇などを持ち込み居心地の良い、安心した生活が出来るよう家族に働きかけている。	ベッド、筆筒など家族と協力して本人が居心地よく過ごせる様に設えている。衝立で人目を遮り馴染みの品に囲まれて編み物など趣味の時間を居室で過ごし、10時、3時には皆とお茶を楽しむ安心した暮らしが見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手摺り、自室入口には表札を掲げている。カレンダーめくりを日課にされている入居者のために位置を工夫したり、生活に必要な物を直ぐ取り出せるよう工夫をしている。		